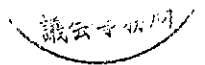


調査研究、研修、要請・陳情活動報告書




平成30年11月6日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 新風 議員氏名 小河 光昭	
年月日	平成30年10月16日(火) ~ 平成30年10月16日(火)		
時間	16日 午後2時00分 ~ 午後3時50分		
参加者氏名	小河光昭、下村卓也		
用務先	住所	神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子	
	名称	神奈川県水産技術センター	
目的・内容	<p>目的：アワビ、サザエ等の種苗生産、中間育成について研修する。</p> <p>内容：アワビ、サザエ等の種苗生産、中間育成について神奈川県水産技術センターの施設を見学しながら説明を受けた。</p>		
成果・所感	<p>10月16日、午後2時から約2時間、神奈川県三浦市城ヶ島水産技術センターにて主にサザエの種苗生産、中間育成について視察研究を行いました。</p> <p>種苗生産、サザエの親貝は約20kg購入(餌の豊富な場所から取れた貝、強い貝が良い)その中から更に強そうな貝10kg~15kgで産卵を行う。(生産個数により産卵回数は変わります。)産卵時期は7月~8月で次年度の秋~冬まで飼育して放流する。当初は30mmまで飼育しての放流でしたが、現在は20mmで放流している。30mmでの放流で生存率が約30%、20mmでの放流生存率が約20%~28%とあまり変わらないことから、コストを下げるために20mmで放流を行うようになった。約20mmの稚貝を1個25円出荷し、センターでは65万個を目標として約1,500万円の収入があるとのこと。水槽で産卵後、別の水槽で3日~4日飼育(水温を上げないよう水温調整が必要。)その後ケイソウの付着した板で飼育して、成長と共に大きさの選別を行い、大きさ別に飼育を行う。また、生死の選別も3回程行い死貝を取り除いていきます。近年、付着版からネットへの飼育に移行した際に多くの死貝が発生してきているとのことですが、はっきりした原因は解明されていませんでした。</p> <p>他に、キャベツでムラサキウニの飼育を見せていただきました。除去したムラサキウニの有効利用として育成するために、当地で生産の多いキャベツが餌にならないかと実験した結果、成功につながったそうです。</p>		


調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成 30 年 11 月 6 日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 新風 議員氏名 小河 光昭	
年月日	平成 30 年 10 月 17 日 (水) ~ 平成 30 年 10 月 17 日 (水)		
時間	17 日 午前 9 時 00 分 ~ 午前 11 時 00 分		
参加者氏名	小河光昭、下村卓也		
用務先	住所	千葉県南房総市白浜町乙浜小堰 1307-14	
	名称	千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所	
目的・内容	<p>目的：アワビ、サザエ等の種苗生産、中間育成について研修する。</p> <p>内容：アワビ、サザエ等の種苗生産、中間育成について千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所の施設を見学しながら説明を受けた。</p>		
成果・所感	<p>午前 9 時から約 2 時間、千葉県水産振興公社白浜営業所にてアワビの種苗生産、中間育成について視察研修を行った。アワビの種苗生産のための親貝も強い貝の選別が重要であるとのことで、生産時期は 10 月～11 月。アワビはまずメスだけの採卵からオスとの受精～ふ化～幼生管理～稚貝飼育～中間育成とかなり技術が必要と感じた。</p> <p>志摩市において漁業従事者の収入の安定化を図るためこれらの施設と技術の必要性を感じるが、市の財政状況等を鑑みると極めて困難と感じた。</p>		

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成30年11月6日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 新風 議員氏名 小河 光昭	
年月日	平成30年10月17日(水) ~ 平成30年10月17日(水)		
時間	17日 午前11時30分 ~ 午後3時00分		
参加者氏名	小河光昭、下村卓也		
用務先	住所	千葉県館山市館山 1564-1	
	名称	館山市役所 経済観光部 観光みなど課	
目的・内容	<p>目的：志摩市にある“みなとオアシス「渚の駅」海ほおずき”の活性化の参考とする。</p> <p>内容：みなとオアシス「渚の駅」たてやまのレクチャールームにおいて、事業概要、施設整備の目的と経緯、利用状況、効果、みなとオアシス認定のメリットなどについて観光みなど課の和田修課長から説明を受けた。</p>		
成果・所感	<p>予定より少し遅れての到着となりましたが、多くの施設が集まっていることから、市職員に案内をしていただきながら各施設の視察を行いました。そのため、当初の予定時間を大幅にオーバーした視察となりましたが、館山市のその施設に対する思いとこれを核とした地域おこしの取り組みを強く感じ取ることができました。</p> <p>みなとオアシス「渚の駅」たてやまは平成14年3月に館山港振興ビジョンを国・県・市の3者共同で策定し整備が進められていました。特定地域振興重要港湾「館山港」の整備・利用の促進が図られ、大型客船が寄港できる栈橋を整備、平成15年度よりにつぼん丸をはじめ多くの大型客船が毎年寄港していました。また、高速ジェット船も就航しており、伊豆大島や東京への海上交通拠点としても利活用されていました。</p> <p>平成23年2月には千葉県より旧県立安房博物館の移譲を受け、渚の博物館を開館させ、平成24年3月には「渚の駅」たてやまをオープン、平成26年11月には商業施設竣工と積極的に整備を進められていました。</p>		

平成 27 年 12 月には館山市に祖母が在住している関係から、幾度となくこの地を訪れ、この地に詳しい‘さかなクン’が名誉駅長に就任し、その PR 活動等を積極的に行ってくれているとのことでした。それらの努力の成果もあり、平成 29 年 1 月には入館者数 100 万人を達成していました。


海の広場内にあるレクチャールームにおきまして「みなとオアシス」認定のメリット等についての説明も受けましたが、道の駅ほどの効果はなく 10 万分の 1 くらいの効果しか感じられないと担当者としての感想を述べられていました。同じ国土交通省の認定であっても、広く国民に周知され、今では全国道路地図にもその記載がされている道の駅とほとんど知られていないみなとオアシスでは、同じ認定を受けても比較対象にならないほどの開きがあると改めて感じる事となりました。

この認定を受けることにより、国土交通省のホームページでその施設の紹介がされるとのことでしたが、国民に広く周知されているとは感じられず「みなとオアシス」認定のみのメリットは極めて少ないと感じられました。

このことから、みなとオアシスの認定を受けたことによる効果を期待するよりは、どのように周辺整備をし、どのような客層を誘客につなげるのかといったビジョンをしっかりと持ち整備を進めることが重要であり、その補完的ソフト面の利用といった考えのもとその認定を活用していくことが望ましいのではないかと感じられました。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成30年 11月 6日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 新風 議員氏名 小河 光昭	
年月日	平成30年10月18日(木) ~ 平成30年10月18日(木)		
時間	18日 午前9時30分 ~ 午前11時45分		
参加者氏名	小河光昭、下村卓也		
用務先	住所	山梨県山梨市小原西 843	
	名称	山梨市役所 下水道課	
目的・内容	<p>目的：浄化槽整備推進事業（市設置型）取り組み、現状について視察研修する。</p> <p>内容：市役所にて市設置型合併処理浄化槽整備推進事業を始めとした生活排水処理対策事業の説明を受けたのち、自治会施設に設置した合併処理浄化槽の現地視察を行った。</p>		
成果・所感	<p>午前9時30分から約1時間30分の視察予定でありましたが、市担当者のご厚意で市が最近設置した合併処理浄化槽を見せていただけたことから、現地視察もさせていただきました。</p> <p>山梨市は平成17年3月22日に山梨市、牧丘町、三富村が合併し、新「山梨市」が誕生しました。そのことから、旧市町村で行っていた生活排水処理対策事業に違いがあり、それぞれの整備を整理している状況でした。</p> <p>市のエリア別下水道・浄化槽整備は、三富地区、牧丘地区、山梨地区の3つのエリアに分かれており、三富地区では市町村設置型合併浄化槽設置整備事業が終了し、浄化槽設置補助金を交付する志摩市同様の個人設置型合併浄化槽設置整備事業に移行していました。牧丘地区は下水道と市町村設置型合併浄化槽設置整備事業が行われており、山梨地区では下水道と個人設置型合併処理浄化槽設置整備事業が行われていました。</p> <p>今回の視察は、市が設置及び維持管理を行う市町村設置型合併処理浄化槽設置整備事業がどのように行われているか、またそのメリット・デメリットはどうい</p>		

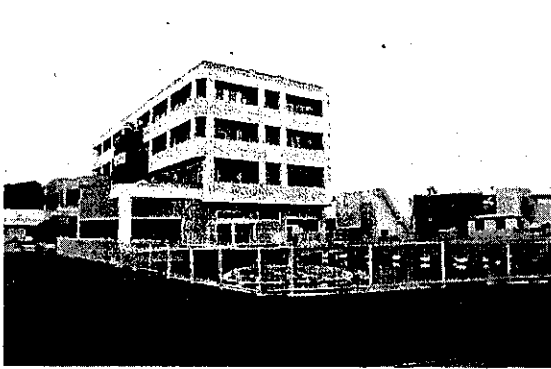
ったものがあるかを視察させていただくために訪問しましたが、維持管理を市が行うことによる生活排水処理の管理徹底とその管理等における課題が多々あることが分かりました。

浄化槽使用料につきましては、山梨市ではまだ多くの世帯が井戸水を使用しているとのことから、合併処理浄化槽の人槽による定額使用料を採用していました。そして、その使用料の収納率は 99.7%と極めて優秀な収納率でありました。しかし、その整備した合併処理浄化槽は個人の敷地に公費で市が設置整備することから、その住宅が個人の都合により空き家になった場合は、使用料の支払い義務がなくなり、整備費用の全額が回収できなくなることや合併処理浄化槽が個人の敷地に残され放置されることとなります。また、その合併処理浄化槽の耐用年数が経過した場合、市が個人の敷地に設置した合併処理浄化槽を入れ替える必要が生じ、その世帯の都合等も考慮しながらの入れ替え作業を余儀なくされるなど、確実な水質安全管理及び合併処理浄化槽の維持管理と引き換えに、将来において数多くの重大な課題を抱える要因を作り出していると感じられました。

志摩市におきましては、現状の整備の中で市民に確実に合併処理浄化槽の維持管理を実行させ、水質保全に努めていただくよう啓発や監視に力を入れることが現実的な対応ではないかと感じられました。

新風・日本共産党合同視察研修会

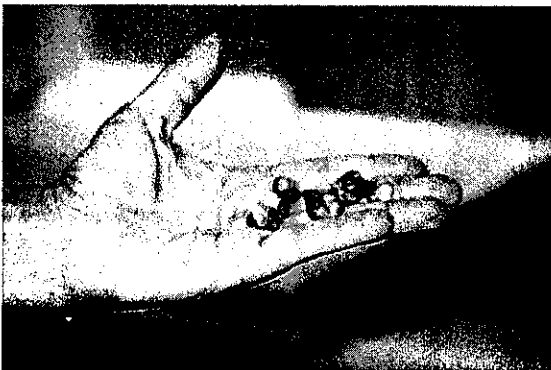
◎ 神奈川県水産技術センターにて（平成 30 年 10 月 16 日）



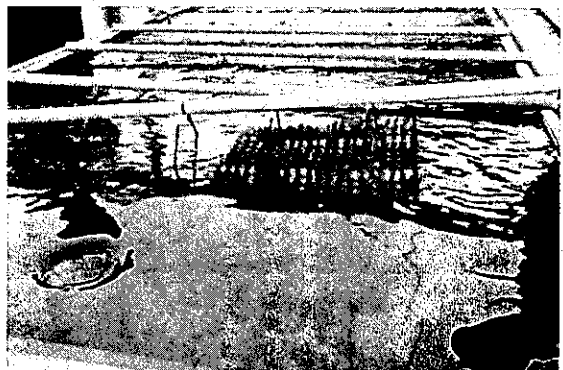
神奈川県水産技術センター



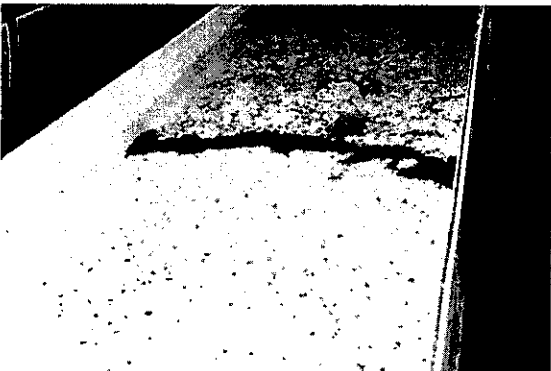
サザエの養殖



サザエの稚貝



波型塩ピ版を使用



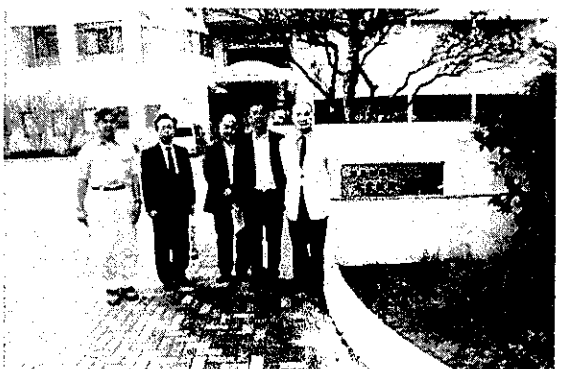
死貝の分別



大きくなったサザエの水槽



大きくなったサザエ

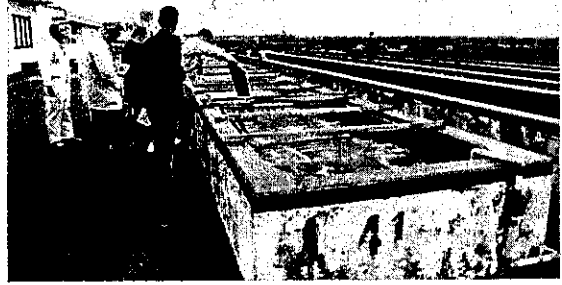


正門前にて集合写真

◎ 千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所にて（平成 30 年 10 月 17 日）



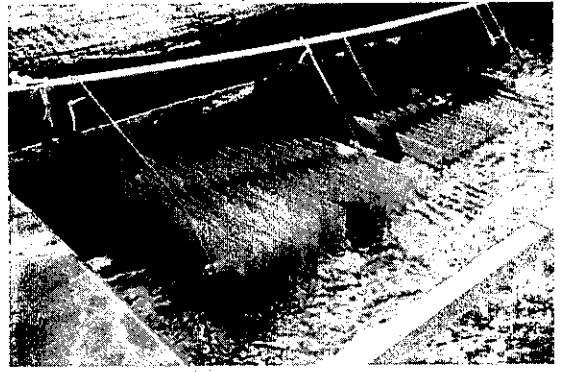
千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所



アワビ養殖の水槽



サイズ分け作業



平型塩ピ版を使用



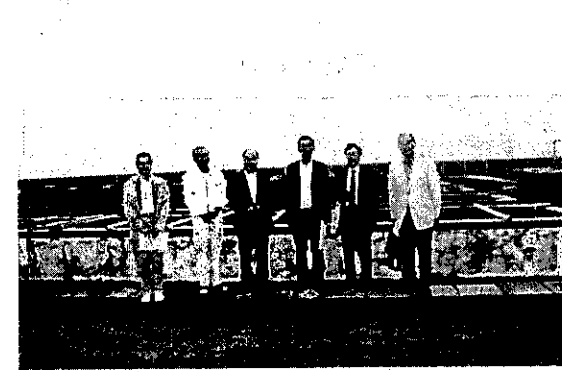
アワビの養殖用水槽



事務所内での座学



見本の貝殻と採寸版



水槽前での集合写真

◎ みなとオアシス '渚の駅' たてやまにて (平成 30 年 10 月 17 日)



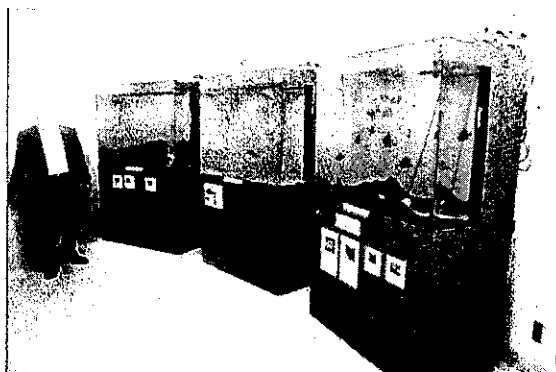
館山市市議会石井副議長あいさつ



館山夕日栈橋



商業施設棟のテラス



海辺の広場の展示水槽

◎ 山梨市役所にて (平成 30 年 10 月 18 日)



山梨市市議会小野議長あいさつ




山梨市役所前での集合写真

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

31.1.22

平成31年 1 月 2 2 日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 新風 議員氏名 小河 光昭	
年 月 日	平成31年 1 月 1 6 日 (水) ~ 平成31年 1 月 1 6 日 (水)		
時 間	1 6 日 午前10時00分 ~ 午後1時00分		
参加者氏名	小河光昭、下村卓也		
用 務 先	住 所	沖縄県名護市名護 4607-1	
	名 称	なごアグリパーク	
目的・内容	<p>目的：なごアグリパークの視察と6次産業化への取り組み 内容：6次産業化推進施設として「なごアグリパーク」を整備し、全国でも先進的に事業への取り組みを行っていることから、その取り組みへの経緯や事業実施状況、現在の課題と将来展望等をレクチャー及び施設見学等を通じて学ぶ。</p>		
成果・所感	<p>志摩市において市の特産物の6次産業化が叫ばれてから久しいが、未だにその施設等はできておらず、民間事業者の努力に委ねられている感が強い。</p> <p>このことから、全国でも珍しい名護市の施設である「なごアグリパーク」を視察し、その取り組み等についてレクチャーしていただいた。</p> <p>「なごアグリパーク」は市が整備し、指定管理でその事業運営を行っていた。指定管理を受けたのは、一般財団法人沖縄美ら島財団であり、随意契約で指定管理者の指定を行ったとのことであった。</p> <p>この一般財団法人沖縄美ら島財団は、海洋博公園や沖縄美ら海水族館、首里城公園のほか、県立名護青少年の家などの公益性の高い施設を管理運営しており、沖縄県への貢献度は極めて高い財団であることから、随意契約でも何の問題もなく議会の承認を得ていた。</p> <p>「なごアグリパーク」は名護市の農業の持つ課題を解決するため、6次産業化と</p>		

観光を融合した複合施設として計画され整備されていた。

施設は加工支援施設、ショップ、レストラン、観光農園からなり、加工支援施設は農産物の加工を支援。ショップは加工品等の販売を支援。レストランは農家と連携して名産農産物を提供。観光農園は集客施設として各施設との相乗効果を担っていた。

名護市の農業の課題は、年々減少する農業粗生産額にあり、その原因究明のため地域産業活性化推進プロジェクトチームを立ち上げ、農業低迷の原因調査と課題の明確化、農業の課題解決への政策提案を行い、その解決に尽力していた。

農業低迷の原因は、志摩市同様に様々な問題があり、農家所得の低下に伴う大幅な減少が深刻な問題となっており、耕作放棄地の増加、市外転出による人口減少が地域の元気をなくす要因となっている。

これを解決するため、平成 24 年度から開始された沖縄振興特別交付金（一括交付金）を活用して「なごアグリパーク」事業に着手した。

平成 24 年度には加工支援施設の建設に約 6.7 億円、平成 25 年度にはショップの建設に約 3.6 億円、平成 26 年度にはレストラン、エントランス、観光ハウスの建設に約 4.3 億円、平成 28 年度には観光ハウス、栽培ヤードの建設とハーブ園の整備に約 1.7 億円を投資し、総額約 16 億円の事業として平成 29 年 11 月 30 日にすべての整備が完了しグランドオープンさせた。年間目標集客数はグランドオープン 3 年後に 30 万人を見込んでいるとのことであった。

加工支援施設では現在 2 業者がインキュベーター室を 3 年契約で賃貸しており、月 20 万円の家賃は、1 年目がその 25%、2 年目はその 50%、3 年目はその 75% を賃料として支払い、4 年目以降は 100% の支払いをすることとなっており、チャレンジする事業者支援を行っていた。

加工研究室は、これから 6 次産業化に取り組みたい方々を対象に、様々な加工機械を使用して農産物を加工できる施設として貸し出していた。阿児特産物開発センター以上に良い機械が整備されているが、利用者は試験的に使用し、事業化できると判断した場合には新しい機械を購入して事業を始めるケースが多く、試験的使用の感が強くなってしまっているとのことであった。

インキュベーター室で開発された商品はショップで販売したり、通販や他の施設で販売したりしているとのこと。ショップでは、ここで開発された商品だけでは品揃えが乏しくなるため、一般の事業者の商品も陳列し、客の購買意欲を高めるための努力をしていた。

レストランでは、市内で生産された農産物にこだわり、島野菜、ハーブ、熱帯果樹、豚、鶏、牛、魚などをビュッフェスタイルで提供していた。食材は、地元農家との委託栽培により生産されたものを中心に使用し、農家は、レストランへの食材供給を行うことで収入の安定化を図ることができるとのことであり、以前より収入は上がっているとのことであり、課題解決に向けた取り組みは一定の効

果を上げていると感じられた。

観光ハウスでは、展示・鑑賞ゾーン、体験ゾーン、販売ゾーン、生産ゾーンがあった。


これらの施設と農家が連携することにより、JAに出荷できないようなB級品等の販路拡大につながり、収入の安定化に寄与する施設となっていた。

指定管理料は「なし」で指定管理受託者の努力で施設運営をする必要があるが、現在のところ収支は赤字状態であるとのことであった。しかし、沖縄全体の観光振興の面から、ここで生産された農産物を美ら海水族館で販売するなど、指定管理者である一般財団法人沖縄美ら島財団の全体事業計画の中の一つの事業として採算度外視で指定管理を受けてもらえた強みとその財団の地域交流の考え方も含めた取り組みで、この施設の活性化を図ろうとする姿勢には敬服するところがあった。

志摩市においては、阿児特産物開発センターがあるが、この施設をどのように活用し、その周辺整備も含めてどのような計画性を持たせるかといった参考にしたかったが、指定管理を受けた財団のしっかりした体制があつてこそその「なごアグリパーク」といった感が否めず。そのままマネできるようなものでもなく、志摩市にあった6次産業化とはどういったものかを考えさせられる視察研修となった。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成31年 1 月 22 日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 新風 議員氏名 小河 光昭	
年 月 日	平成31年 1 月 17 日 (木) ~ 平成31年 1 月 17 日 (木)		
時 間	17日 午前9時00分 ~ 午前10時30分		
参加者氏名	小河光昭、下村卓也		
用 務 先	住 所	沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号	
	名 称	那覇市役所	
目的・内容	<p>目的：子どもの貧困緊急対策事業について</p> <p>内容：子どもの貧困緊急対策事業を実施するに至った経緯、子どもの貧困に関する支援事業の内容、居場所型学習支援事業運営状況、子どもの包括的自立促進支援事業の運営状況、子どもの貧困緊急対策事業実施における成果、今後の課題と事業の見通し等について聞き取りを行う。</p>		
成果・所感	<p>子どもの貧困は沖縄県においてはかなり深刻な問題となっており、子どもの相対的貧困率 (H26) は全国平均 13.9% (H27) に対し、29.9%と大きな開きがあった。</p> <p>1人当たりの県民所得 (H25) も 2,102 千円と全国平均の 3,065 千円と比べると約 2/3 であることから、そのことも大きな要因に挙げられると感じた。所得が低い原因は、非正規の職員・従業員率 (H24) が全国平均 38.2% に対して 44.5% と極めて高いことが要因であると考えられる。母子世帯出現率 (H22) も全国平均 1.5% に対し 2.7% と 2 倍近くに及びこれらは全国 1 位の状況であった。</p> <p>これらのことが災いしているのか、生活保護率 (H29.1) も全国平均 16.5% に対し 22.5% (‰とは、1000 分の 1) の状況であり、就学援助率 (H27) も全国平均 14.2% に対し 19.2% で全国 8 位の状況であった。</p> <p>このことから、全国と沖縄県では子どもの貧困対策について平成 25 年 6 月の「子どもの貧困対策の推進に関する法律」成立後様々な取り組みを行っていた。また、那覇市においてもこの問題の解決のため、平成 28 年 2 月に「那覇市こどものみらい応援プロジェクト庁内推進会議設置要綱」を制定し本格的にその対策に乗り出した。</p> <p>子どもの貧困には三つの貧困問題がある。経済的に困窮しており、衣食住を維</p>		

持することが難しい生活状態の「経済的貧困」。親族や知人等、相談や世話をしてくれる人がいない状態、または、仕事や地域コミュニティ等にも関わっていない、若しくはかかわりが弱いために孤立している状態の「社会的貧困」。経済的貧困、社会的貧困を起因とし、社会一般的な生活習慣や生活状況と比較して極端に偏ってしまっている状態の「文化的貧困」である。この3つの貧困は相互に関与し、貧困の連鎖が発生している。このことを認識しながらその対応に当たることが必要であり、多くの支援員の配置が不可欠となる。

このことから、「支援員の配置事業（連携）」では、子どもたちの実態把握、支援コーディネート等を行い、子どもたちが抱えている課題やその原因を把握し、様々な関係機関と連携しながら子どもたちが自立できるように支援を行っている。支援としては、児童（子ども）の自立支援、寄り添い支援員、子育て世帯自立支援員の配置である。

「5つの居場所事業」では【主に課題を解決するための事業】として、人間関係やキャリア教育等も付加した学習支援事業としての「居場所型学習支援事業」を行っているが、必ず勉強しなければならないという体制は取らず、居場所があることが大切との観念で事業を行っているとのことであった。また、保護管理課で実施する不登校対策支援事業として「包括的自立支援事業等」を行い、子ども同士で助け合うことを学ばせていた。教育委員会が実施する不登校対策事業として「むぎほ学級」を開設し、子ども1人に対し支援員1人を配置してその対策を行っているとのことであった。

【主に地域づくり、人間性や社会性を育むための事業】としては、人と人との関りで作るセーフティネットとして、子ども食堂等の「ボランティア団体が実施する子どもの居場所運営事業」や児童館等での子ども食堂等の「公共施設管理団体等が実施する子どもの居場所運営事業」があり、これら子ども食堂は市の補助金を受けて実施している団体と補助金を受けずに団体独自の努力により実施している団体があるとのことであり、子どもの貧困対策に対する強い思いを感じることができた。なお、子ども食堂への食材は廃棄物としての食材提供は受けないとの姿勢を持ち、食育としての認識もしっかりしていた。

子ども食堂等の市民主体の子どもの貧困対策に行政に期待していることとして、地域で子どもたちを見守る・育てること。絆づくり。セーフティネットとしての役割。差別を産まず、孤立化もなく子どもたちが安心して通える居場所等であるとのことであった。

「沖縄子供の貧困緊急対策事業」（内閣府）を活用した取組み（平成29年度）は、①「子供の貧困対策支援員事業」と②「子供の居場所の運営支援事業」の実施であり、①の事業は支援員を配置することにより、地域の現状を把握し、就学援助や子どもの居場所などの支援につなげることを目的に実施し、子どもの寄添支援員（問題を抱える小中学生の支援）18人、子どもの自立支援員（生活保護世帯の小中学生の支援）8人、子育て世帯自立支援員（子育てに悩みを抱える親子の支援）1人を配置し、②の事業は居場所支援として、食事の提供、生活指導、学習支援等

を行いながら、日中や夜間に子どもが安心して過ごすことのできる場所を提供することを目的とし、延べ 54,968 人の利用者がある。那覇市の居場所事業は直営の不登校児支援が 1 か所、委託の学習支援が 3 か所、包括的支援が 1 か所あり、他にも民間の居場所事業所に補助金を交付しており、19 団体がその補助を受けて活動をしている状況であった。

これらの事業を連携させ、③「那覇市こどもみらい応援プロジェクト庁内推進会議」（庁内の関係 23 課で構成する会議）において、子どもの貧困対策に関して情報共有し、事業の効果的な推進を図るための協議を行い、常に何が必要かどうかを検討しながらその対策に当たっていた。

内閣府による「沖縄子供の貧困緊急対策事業」は補助率 100%の国庫補助金を活用して実施されており、その対策の多くは支援員を配置し、その実情を知り、どの対策が当事者に必要かを検討し、必要な支援をしっかりと行っていく体制がとられていた。支援は行き過ぎても足りなくてもいけない難しさがあり、担当職員の苦悩が見て取れた。

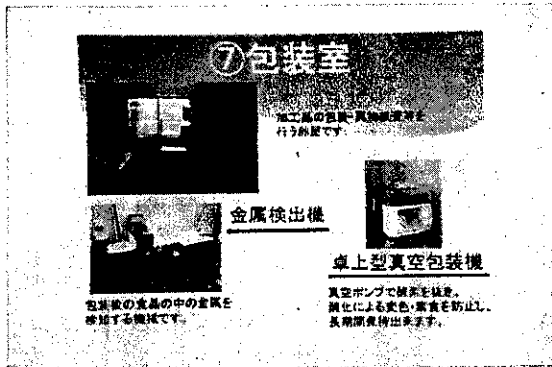
「被保護世帯子どもの健全育成支援プログラム事業」においては、支援するにあたっての同意書を提出させるなど、支援員と支援される側の意思の疎通を図るための対策も取られ、しっかりとした支援が行えるよう細心の注意が払われていると感じた。

このような支援員配置が必要となった背景には、那覇市の人口約 32 万人に対し、自治会の加入率が約 16%と極めて低く、民生委員においても定足数の確保ができない状況があり、都会が抱える問題が多く、支援員を配置しなければならない状況を作り出していると感じられた。

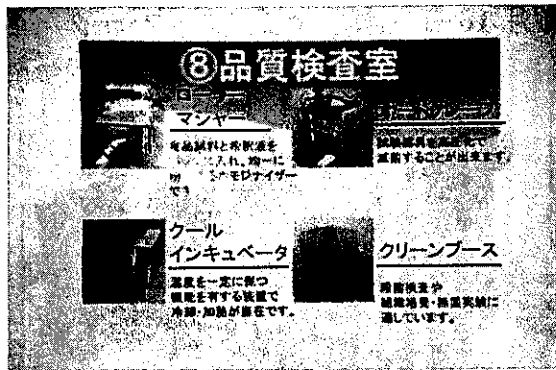
これらの支援事業に国・県合わせて 2 億円の補助金が交付されているからこそ支援員の配置ができ、市の持ち出しが不必要だからこそ他の事業に影響を与えずこの事業が実施できている現状がある。そのため、今後補助率の減少が待ち受け、事業実施 4 年目以降は 90%、6 年目以降は 80%と下げられた時にどのような支援ができるか、また補助が打ち切られたときに現状を維持できるかが大きな心配事であり、事業の見直しを迫られることは必至と考えられ、今からその対策を検討しているとのことであった。

子どもの貧困や少額所得世帯対策を行わなければ、負の連鎖が続き、高校にも行けずに中学卒業後就職する子どもたちの多くは、日雇い労働や夜の商売に身を置くことが多く、それを望んでいくなら良いが、そうでなければ何かしらの対策を取らない限りこの問題は続いていくものと思われる。

志摩市においても子どもの貧困は沖縄県ほどではないかもしれないが、三重県下で最低の所得状況であることから、同様の問題が隠れている可能性はあると思われる。しっかりとした状況把握が行政に求められているのではないかと感じた。



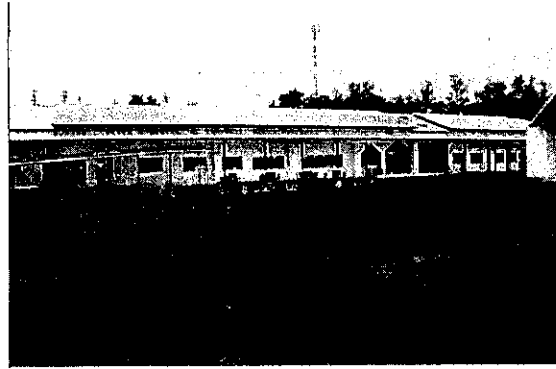
包装室紹介パネル



品質検査室紹介パネル



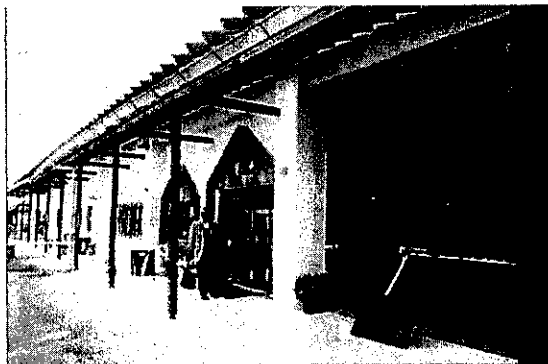
加工研究室の利用紹介パネル



加工支援施設



加工研究室



インキュベート室



観光ハウス



観光ハウス



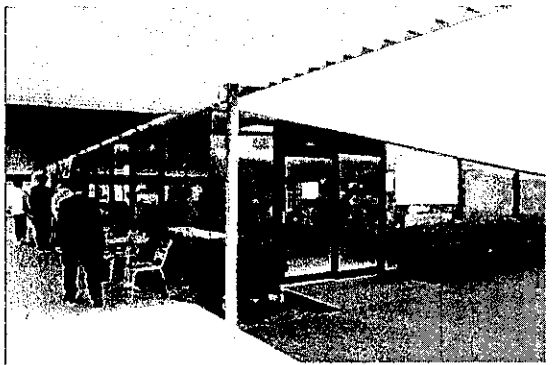
エントランス



中庭



レストラン



ショップ

1月17日（木）那覇市役所



子どもの貧困対策関係課職員



会派代表あいさつ



議会事務局職員と関係課職員




進行役の議会事務局職員

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

31.4.-1

平成31年 3 月 29 日

志摩市議会議長 様	報 告 者	会 派 名 新風 議員氏名 小河 光昭	
年 月 日	平成31年 3 月 25 日 (月) ~ 平成31年 3 月 25 日 (月)		
時 間	25日 午後3時30分 ~ 午後4時00分		
参加者氏名	小河 光昭、下村 卓也		
用 務 先	住 所	千葉県銚子市犬吠埼	
	名 称	犬吠埼灯台	
目的・内容	<p>目的：志摩市の参観灯台の周辺整備の参考とするため、犬吠埼灯台を視察する。</p> <p>内容：犬吠埼灯台周辺の整備状況の確認と、その周辺で事業を営む市民への灯台との関わりや灯台への思い等の聞き取りを行う。</p>		
成果・所感	<p>平成30年11月10日～11日に開催された灯台ワールドサミットに参加した銚子市にある犬吠埼灯台は全国一の集客を集めているため、灯台を含めた周辺整備と周辺環境がどのようになっているか、時間の関係で市役所職員にレクチャーを受けることができなかつたため、燈光会職員や隣接する商業施設の職員にいろいろと話を伺った。</p> <p>犬吠埼灯台は国の登録有形文化財に指定されていることから、敷地内は修復作業以外、特に手を加えられないとのことであった。それでも、敷地内には犬吠埼灯台資料展示館や休憩所、霧笛舎、展示室が整備され、灯台に関する学びの場を提供しており、安乗岬園地の灯台資料館よりもしっかりと整備されていた。</p> <p>灯台そのものも九十九里にあることから階段は99段と粋なつくりにしてあり、設計者の地域性を考慮した配慮がしっかりと伝わった。</p> <p>灯台の前には奇麗な商業施設があり、地元産の農産物やお土産、カフェに展望休憩施設等が整備されていたが、すべて民間活力による整備とのことであり、平日にもかかわらず比較的多くの観光客が午後4時以降にもいた。これらを見ると</p>		

地元民の灯台中心としての取り組みを行うことで、地域を元気にという住民の思いが強く伝わってきた。

犬吠埼灯台周辺は東日本大震災において被災し、灯台の近くにあった最も大きな宿泊施設は海拔 10m にも満たない場所に建っていたことから宿泊施設に津波が流入し廃業に追い込まれ、銚子漁港も壊滅的な被害を受け、それに追い打ちをかけるかのように福島第一原子力発電所からの放射能が銚子にも流れてきているとの風評被害に遭い、客足は一気に遠のき閑散とした状態であったとのことである。


これらの苦難を乗り越えるため、地元民が力を合わせて地域を活性化しようと 1995 年に結成された犬吠埼プラントン会を中心に努力をされており、昨年志摩市で開催された第 1 回灯台ワールドサミットにも参加していたとのことであった。

灯台から少し離れたところには萬願寺や地球の丸く見える展望館、銚子漁港といった施設や海水浴場などもあり、灯台と周辺施設の掛け合わせと民間活力による集客努力が実を結びつつあり、客足は回復基調にあるとのことであった。

なお、今年のサミット参加後取り組み内容の変化や集客効果はあったかと燈光会職員に尋ねたところ、特に変わってはいないが、平成 31 年度は銚子市が主催することになるので、ぜひ多くの関係者の方々に参加してほしいとのことであった。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成31年 3 月 29 日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 新風 議員氏名 小河 光昭	
年月日	平成31年 3 月 26 日 (火) ~ 平成31年 3 月 26 日 (火)		
時間	26日 午前9時10分 ~ 午前10時50分		
参加者氏名	小河 光昭、下村 卓也		
用務先	住所	千葉県安房郡鋸南町保田 724 番地	
	名称	都市交流施設 道の駅 保田小学校	
目的・内容	<p>目的：学校の統廃合により廃校となった校舎の有効活用の参考とするため、都市交流施設・道の駅「保田小学校」を視察する。</p> <p>内容：鋸南町が整備し、指定管理者を選定し運営している都市交流施設・道の駅「保田小学校」の計画から完成までの経緯と、完成後の指定管理者選定と指定管理者の集客における戦略等を座学により聞き取りし、その後施設見学を行う。</p>		
成果・所感	<p>鋸南町は平成の大合併時に自立を選択した町であり、町内には有数の観光地となっている鋸山を有しており、そこにある日本寺や鋸山の地獄のぞきは多くの観光客を魅了し続けている。日本寺は外国人の人気場所で第2位を取っているということもあり、当日も外国からのメディアが取材に訪れていた。</p> <p>鋸南町はこのほか花観光で客の呼び込みを行っており、2月頃の花のない時期の穴埋めをするために河津桜を植栽し、今では14,000本の河津桜とその他4,000本の桜系18,000本が植栽され、集客に寄与するばかりか町民にも愛され大切にされているとのことであった。</p> <p>その中で、少子高齢化や人口減少ほどこの自治体も同じで、この鋸南町にしても同様であるとのことであった。人口は2月1日現在7,874人で、減少率は約10%、出生数は年30人未満という状態であり、高齢化率45%、後期高齢者20%以上という日本の中でも10年以上先を行った高齢化最短の町との危機感を持っていた。</p> <p>今回視察した道の駅「保田小学校」は少子化に伴い小学校の統廃合を進め、空き施設となった保田小学校をどうするか、人口減少と深刻な後継者不足をどのよ</p>		

うに解消していくかなど、相次いだ小学校閉校と地域活力の減退に歯止めをかけるため、都市交流施設整備事業を行うためのプロジェクトを立ち上げ、保田小学校を残すか、改修して別の施設として活用するかといったことから真剣に話し合いが行われたとのこと。

鋸南町には道の駅「きよなん」があるが農産物の直売は行っておらず、公園もないといったことから町民が集える施設づくりを目指すとともに、鋸南町の農業を変えらるるとして都市交流施設を道の駅に指定してもらい、新たな施設の建設ではなく町民が愛着のある保田小学校としての利活用を目指すこととした。日本建築学会でも有名な建築家を審査員に迎え、町民に見える形で設計者の公開プロポーザル審査を実施したところ、予想に反して全国から37の応募があり、その中で最優秀アイデアを示したN.A.S.A設計共同体（5大学連携、4事業所）を選定し、体育館を大きな市場に、教室を宿泊室に、周辺環境と調和させ、初期投資の節約、校舎を再利用のコンセプトのもと5つの大学の学生も参加しアイデアを構築させていた。

学校の再利用は取り壊し後新設するのと事業費に大差はなく多くの意見があり、直売所施設の売り上げもどれくらいあるかもわからないことから、開校当初は3か月で廃校するとのうわさも流れていたとのことであった。

直売所の運営は当初JAあわに打診したが断られ、出荷者組合を立ち上げ運営することになったとのこと。現在の会員数は約200名であり、増加中であるとのことからも成功していることがはっきりとうかがえた。

この施設は指定管理に出され、株式会社共立メンテナンス（ドーマー・イン・チェーン等を手掛けている。）がその指定を受け、事業の黒字化に向けて日々努力をしている。月2回の大きなイベントと毎月の小さなイベントを実施し、集客の努力を続け、最初の5年間の指定管理料は40,500千円で契約したが、最初の3年で40,000千円、残りの2年で500千円を受け取り、6年目以降は黒字化に成功したため、町に20%、町づくり基金に40%、指定管理者が40%の収益配分としているとのこと。

直売所に出している農家は最も多い売り上げを出している方で300万円ということであり、手数料は野菜類18%、加工品20%で、内1%が組合の研修費に積み立てられることとしているため、指定管理者へは野菜類17%、加工品19%が入るだけとのこと。また、1億円の売り上げがあったことから、1%の研修費積み立てで100万円が組合員の研修に役立てられ、組合員の生産性の意欲向上につながっていることが相乗効果として現れ、人口減少が続く鋸南町にあって明るい材料であることは間違いない。

成功した理由はコンセプトがしっかりしていたこと、インターチェンジから200mの立地の良さ、年間60万人が訪れる鋸山があったこと、東京から約90分の場所であることなどがあるとのことであった。

志摩市においても地理的相違はあるが、コンセプトをしっかりといるところは十分学び生かせるのではないかと感じた。

犬吠埼灯台及び道の駅「保田小学校」



犬吠埼灯台入口



展示室入口



灯台内



展示室内



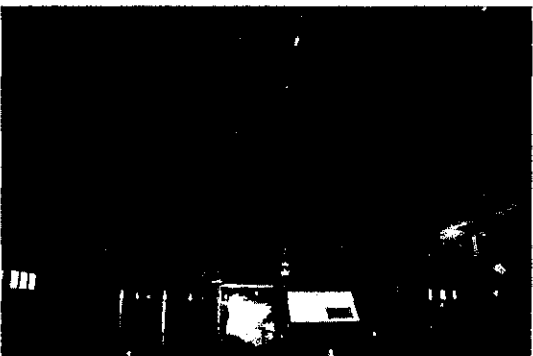
展示室内奥



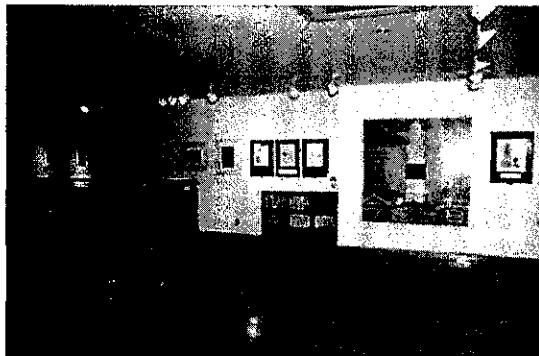
休憩所



資料展示室



展示室 1階



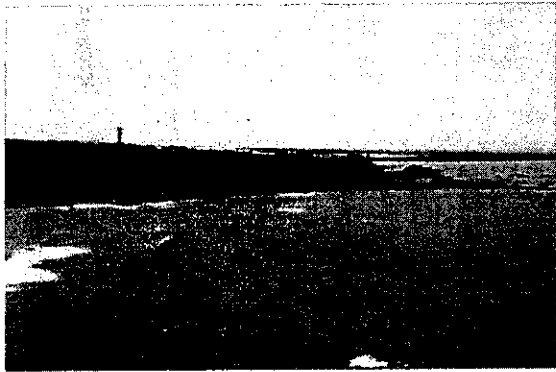
展示室 2階



眺望 (ホテル側)



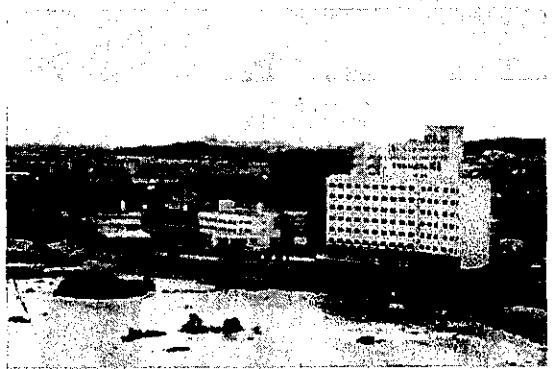
眺望 (南方向)



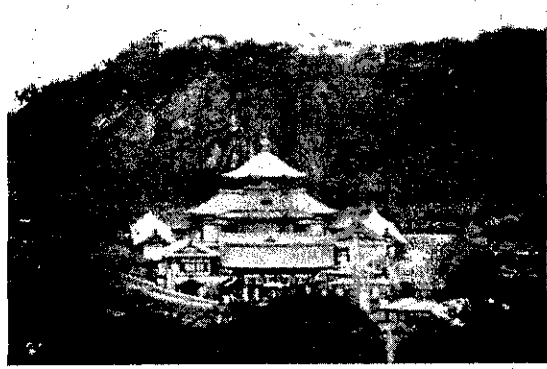
眺望 (北方向)



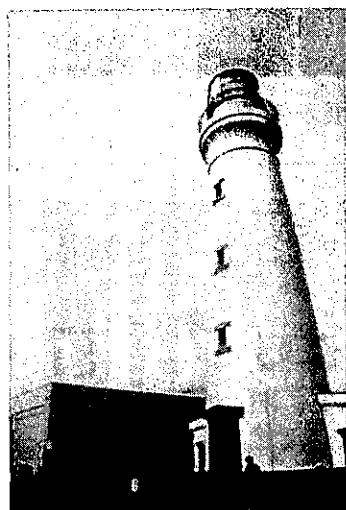
眺望 (海岸線)



震災により閉鎖したホテル磯屋



萬願寺



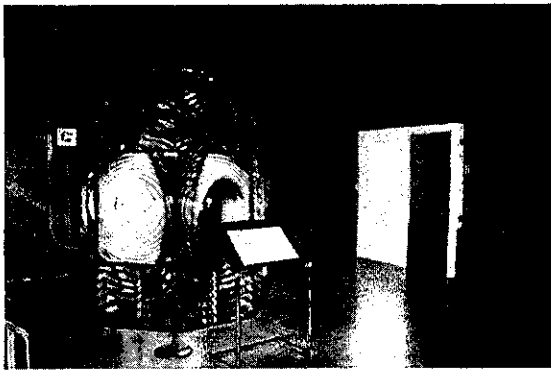
敷地内



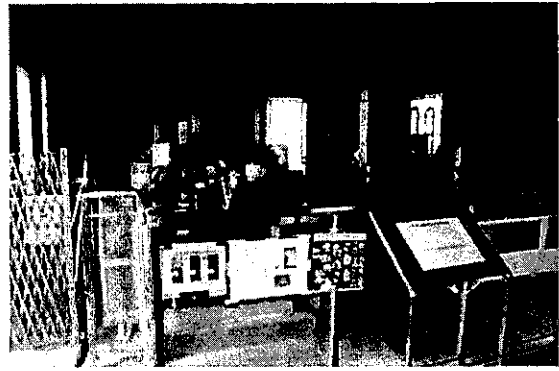
霧笛舎



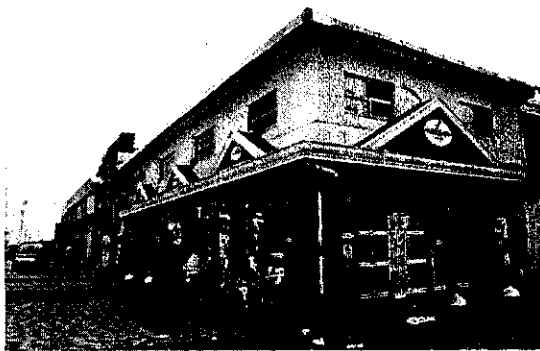
霧笛舎内部



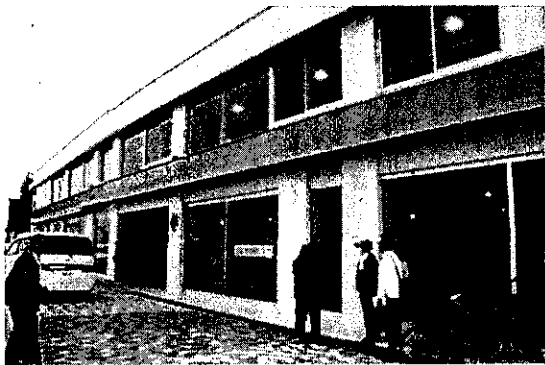
霧笛舎内部



霧笛舎内部



商業施設 (なぎさや)



商業施設 (犬吠テラステラス)



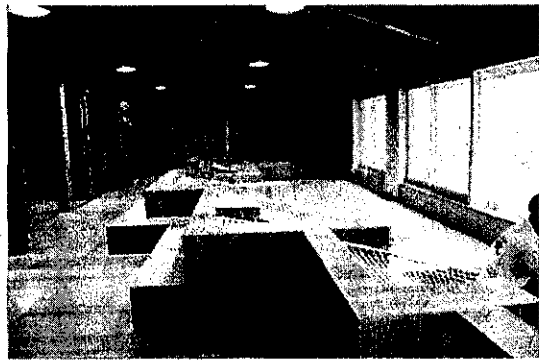
犬吠テラステラス 1階



犬吠テラステラス 1階



犬吠テラステラス 2階



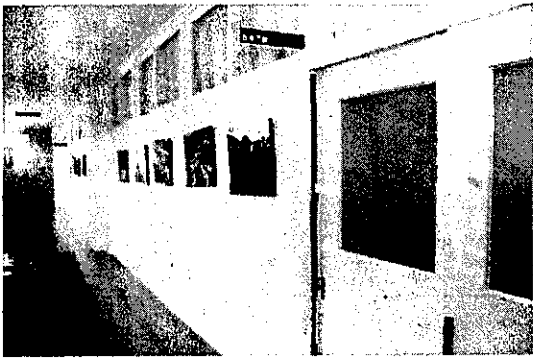
犬吠テラステラス 2階



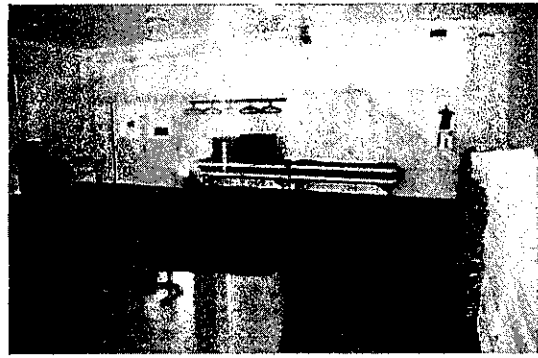
調理室にて研修



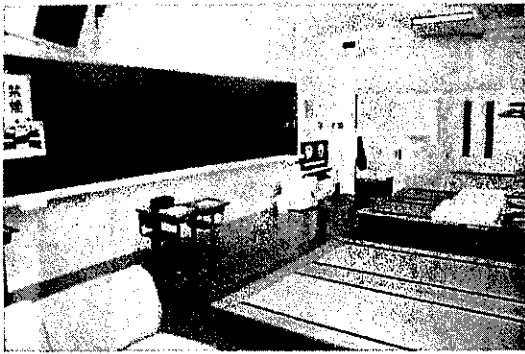
インフォメーション



廊下



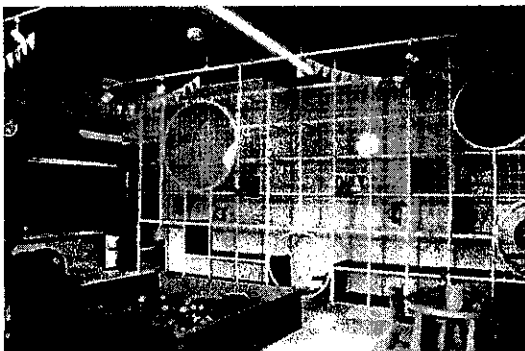
宿泊室 (大部屋)



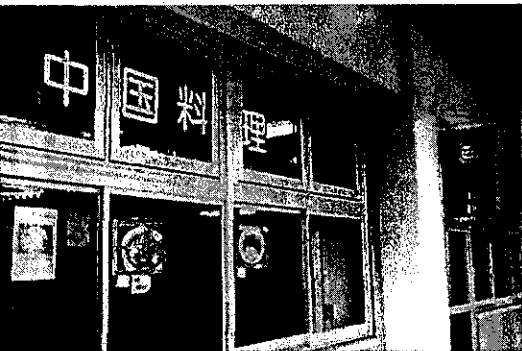
宿泊室 (小部屋)



まちの縁側



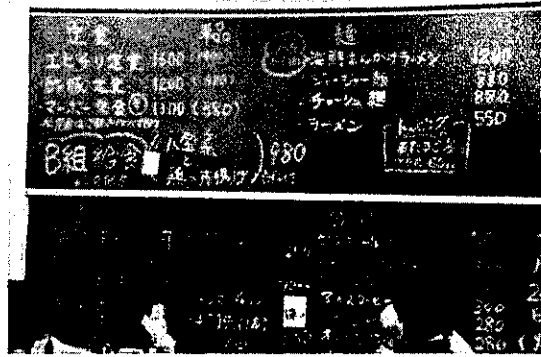
子ども広場



テナントの食堂 2年B組



店内にある学校のトロフィー



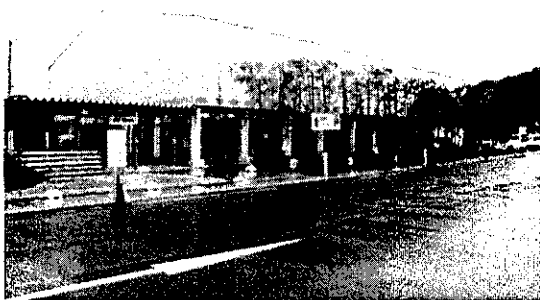
黒板を利用したメニュー板



校舎前に設置された顔出しパネル



道の駅「保田小学校」



体育館を利用した直売施設



直売施設内部



直売施設内部



移設した二宮尊徳像